

川尻真也先生 : Scand J Rheumatol (2010) in press, Ann Rheum Dis (2010)69(5):879-882 Rheumatology (2009) 48(12): 1566-1569

### **“関節エコーとリウマチ性多発筋痛症”**

#### **Ultrasonography in early assessment of elderly patients with polymyalgic symptoms: a role in predicting diagnostic outcome?**

【背景】高齢者の多発筋痛症状を呈する患者さんでは、リウマチ性多発筋痛症(PMR)、elderly - onset RA(EORA)、ピロリン酸カルシウム沈着症(CPDD)などの鑑別が必要です。今回、その鑑別診断や治療反応性に対する、関節エコーの有効性が検討されました。

【方法】61名の多発筋痛症状を呈する65歳以上の患者さんに対し、初診時に関節エコーを施行、それぞれのエコー所見と、1年後の診断確定寄与度について検証されました。

【結果】PMRでは、エコーでの肩甲下三角筋下滑液ほう炎の所見がOR5.6と最も有効であるのに対し、EORAは、手関節のパワードップラー陽性や、滑膜炎所見、CPDDは、半月板やアキレス腱の石灰化所見が有効であることが明らかとなった。さらに、PMRの治療経過において、滑液ほう炎や腱鞘滑膜炎のエコー所見は、臨床症状に非常に相関しており、ステロイドで一旦寛解したと考えられる症例でも、エコー所見の半分程度は残存していることが明らかになりました。

【結論】このように、高齢の多発筋痛症状患者からPMRを診断したり、ステロイドに対する治療反応性を鋭敏にとらえる手段として、関節エコーの有用性が高まる可能性が示唆されました。お年寄りキラーの川尻先生の出番が、さらに増えそうです。(文責 阿比留)